

《特別報告》

第12回日本禁煙学会・香川学術総会を開催して

森田純二

第12回日本禁煙学会学術総会 実行委員長

日本禁煙学会 理事

香川タバコの害から健康を守る会 会長

平成30年(2018年)11月10、11日と第12回日本禁煙学会学術総会を香川県高松市で開催し、あっという間に1年が過ぎてしまいました。ご報告が遅れましたこととお詫び申し上げます。本学会は最近では熊本、東京、京都で開催され、2020年のオリンピック・パラリンピックが近づくにつれ受動喫煙の害などに注目が集まり、参加者も多く規模も大きくなってきました。そのため果たして香川県でこのような大きな学会をできるかどうか不安でした。そこで会長に香川県医師会長である久米川啓先生に無理をお願いし、先生のリーダーシップの下に私は実行委員長となり、2年半の間準備しました。近年企業からの寄付金などの援助は急速に後退しており、財政的にはかなり厳しいものとなっていました。そのため、香川県医師会の先生方や多くの皆様に寄付金をお願いした結果、予想以上に資金が集まり、何とかその日を迎えました。学会のプログラムも市民公開講座のプログラムも、内容には自信を持っていたのですが、果たして参加人数が最近の本学会と同様に集まるかどうかは、学会が始まる前まで本当に心配でした。

あらかじめ参加費が割安の事前予約を募集したところ、600名を超える参加者を確保できたのは過去の学会より多かったのでホッとしました。しかし大都会のように当日参加が多くは期待されないかも知



写真1 久米川啓先生のご挨拶

れず、学会当日までは気がぬけませんでした。結果的には学会への参加者が900名、市民公開講座の参加者は300名を越える盛況ぶりです。本当に参加者の皆さまをはじめ、ご寄付をいただいた多くの皆さまにもお礼を申し上げたいと思います。

学会のトップバッターとして、久米川啓先生が会長講演を「香川県医師会としての喫煙対策—昨日、今日、明日—」と題し上手く話をまとめていただきました(写真1)。

プログラムの内容はメインテーマを「禁煙の草の根運動」としたので多くのプログラムもその線に沿って準備を進めました。各地で行われている禁煙支援の運動の紹介や、COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度向上に向けてのシンポジウム(写真2)、また禁煙支援



写真2 COPD認知度向上のためのシンポジウム 各地からCOPD専門家が集まりました



写真3 第1会場は常に多くの人に参加されました

におけるメディカルスタッフの役割などできるだけ学会のテーマに沿うような形で考えました。その甲斐もあり第1会場は常に満席となりました(写真3)。

また海外からの講演は2題用意し、一人はフィリピンの若い女性で北京で行われた国際学会ですばらしいプレゼンをしていたMs. Pauline M. S. Villarをお呼びしました(写真4)。もう一人は私の20年来の友人で今はテキサス大学の心臓血管外科教授となられたProf. Randall K. Wolf先生に無理をお願いして来ていただきました(写真5)。二人とも大変すばらしい講演をされたので、多くの参加者は感銘を受けたことと信じています。また医師以外のメディカルスタッフも多く参加しているため、二人のスライドは望月友美子先生と私で日本語に訳したものを投影しました。その準備は正直言って大変な労力を要しましたが、よかったという人も多く、やり甲斐はありました。

そしてこの学会と肺癌学会の関係をより強固にするため、こちら無理を言って、世界肺癌学会の次期理事長である光富徹哉先生に特別講演をお願いし



写真4 フィリピンからこられた女性禁煙活動家
Ms. Pauline M. S. Villar



写真5 米国テキサス大学のProf. Wolf先生の講演

しました(写真6)。

さらに今回の目玉講演として、今や日本はもちろん世界的にも大活躍し、テレビの情熱大陸でも話題となった、杉本真樹先生に「インセンティブに基づくプレゼンテーション・スピーチ・デザインの秘訣」を特別企画としてお話いただきました(写真7)。彼の



写真6 世界肺癌学会次期理事長
光富徹哉先生



写真7 世界で活躍中の杉本真樹先生の
プレゼンの講演

講演後は多くの参加者から賞賛の言葉をいただきました。

2日目午後からの市民公開講座は、講演に先立ち「肺の力ゲーム」を参加者に体験してもらったり、地元で活躍する音楽家によるミニコンサートも用意しました。講演はシンポジウムでも取り上げたCOPDと、今いろいろな意味で話題になっている加熱式タバコの2題を取り上げ、こちらも予想を超える参加者で盛り上がりました。

学会を終了するころには多くの人からお褒めの言葉をいただきました。今回の学会は日本禁煙学会の会員の皆様はもとより、香川県医師会の皆様や私の出身大学の徳島大学関連の多くの先生方に支えられ完遂できたものと考えています。

終わってみれば、参加者や寄付金が予想以上に多くあり、余剰金が出て学会に納めさせていただきました。

した。その一部を、今後学術総会でGRP賞「草の根活動賞」を選出して、10年間をめどに奨励することによってさせていただくこととしました。少しでも学会の活性化に繋がれば幸いです。

再度報告が遅れたことをお詫びいたしますと共にすべての皆様に感謝申し上げます。

参考資料

<http://www.med-gakkai.org/jstc2018/>

公益財団法人 香川県予防医学協会顧問 森田純二
<https://groups.google.com/group/kagawa-smoke-free?hl=ja>
<http://www.facebook.com/junji.morita.75>
<http://nippon.nosmokeworld.com/>
http://www.nosmoke55.jp/passive_clinic.html



ご協力いただいたスタッフの皆様(会終了後)